



◇物流2024年問題◇

【物流2024年問題とは】

付帯する悪影響とは、ドライバーの労働時間減少（収入が減少）するため、他業種への流出へと繋がり、残ったドライバーの長時間労働となるのが危惧されます。

そのためトラック輸送・リソースの減少・トラック稼働時間の減少・運賃値上げ・それは流通コスト増加となる要因です。

トラック運転手の時間外労働は、上限が決められ、違反企業には懲役、もしくは罰金が課せられます。

労働時間の制限は、トラック運転手の収入減を招き、運転手の流出、運転手不足が加速し建材・設備を含むあらゆる物流に支障が出る事が想定されるので納期、遅延に注意が必要です。

またウクライナ情勢によって燃料費も高騰しており、その見通しは極めて不透明でもあります。

家づくりにおいては、使用する資材、搬送、施工にも搬送費用が伴います。すべてにおいて、早め早めの手配が必須になると思われます。

◇2025年には◇

1年後には、約14万人の運転手不足になり、13%の物が運べなくなると予想されています。物流の停滞による需要減で30年には国内総生産（GDP）が10兆円押し下げられるとの試算もあるくらいの深刻さです。

- ・日常生活においても、生鮮食料品がこれまでのように届かない。
- ・ネット販売の商品配送が滞る。
- ・タクシーが捕まらない。
- ・路線バスの減便が加速する。
- ・引っ越しシーズンに業者が見つからない。

既に一部ではこのように様々な影響が発生し、今後はいっそう厳しくなると予想されています。

その結果、輸送コストが上がり、あらゆる商品は価格転嫁の値上げが始まる事が予想されます。

さらに燃料費の上昇が拍車を掛け「早く届く」サービスは有償高額化、通常料金は「遅く届く」事が当たり前になるとの情報もあります。

さらに再配達に至っては有料化される可能性もありますので、時間に余裕を持って行動（ネット注文含む）する事と、居ない事が多い家には宅配ボックス等の設置をお勧め致します。

◇住宅業界への悪影響◇

家を建てるために必要とする建材・設備とその原料・部品は、その95%がトラックで運ばれているとのデータもあり影響は大きい事が予想されます。

1. 現場までの配送を担う流通店（木材店・建材店・販売店）は運転手を内製化（社員）しており時間外労働規制の影響をまともに受ける。
再配達や現場待機を発生させないため、例として、LINEで現場毎のグループを作る等、進捗状況が工務店を含む業者間全体で把握し、出戻り等の無駄を無くしている。
2. 運転手の高齢化が進むなかで、人員確保や賃上げを迫られる事から、今まで取らなかった配送費を取るようになります。配送費の値上げ要求、早朝や夕方、土曜日の配送NG、時間のかかる手直し、長い手待ち時間NG等を打ち出す流通店も出てくると予想されます。
時間帯、物によっては工務店自身による倉庫・センターでの建材・設備の引き取りをする事で工期を守る事も行っている。
3. 物流コストが上乗せされる事による建材・設備価格の値上げ。（当面は様子見のメーカーが多いと予想されるが実際に物流コストが上がれば価格転嫁するメーカーが増える）

今後は物流コストがメインとなり、まだまだ値上げは色々な方面からやってきます。

現在、新築やリフォーム工事をお打ち合わせの方は、この先の部材の値下がり等は無いと考え、少しでも工事費を抑えるために、早めに仕様を決めて材料を発注してもらう事をお勧め致します。

発注が早ければ確実に安く物を手に入れられ、工期に影響が出るというリスクも避けられると思います。

新築、リフォームの予定が御座いましたら、お近くのファース加盟工務店にお問い合わせください。

ファース加盟工務店は、その地域（土地）に根を張り、地域住民と一緒にこの先も何十年、逃げも隠れも致しません。

（著・事業推進本部 伊庭郁代志）